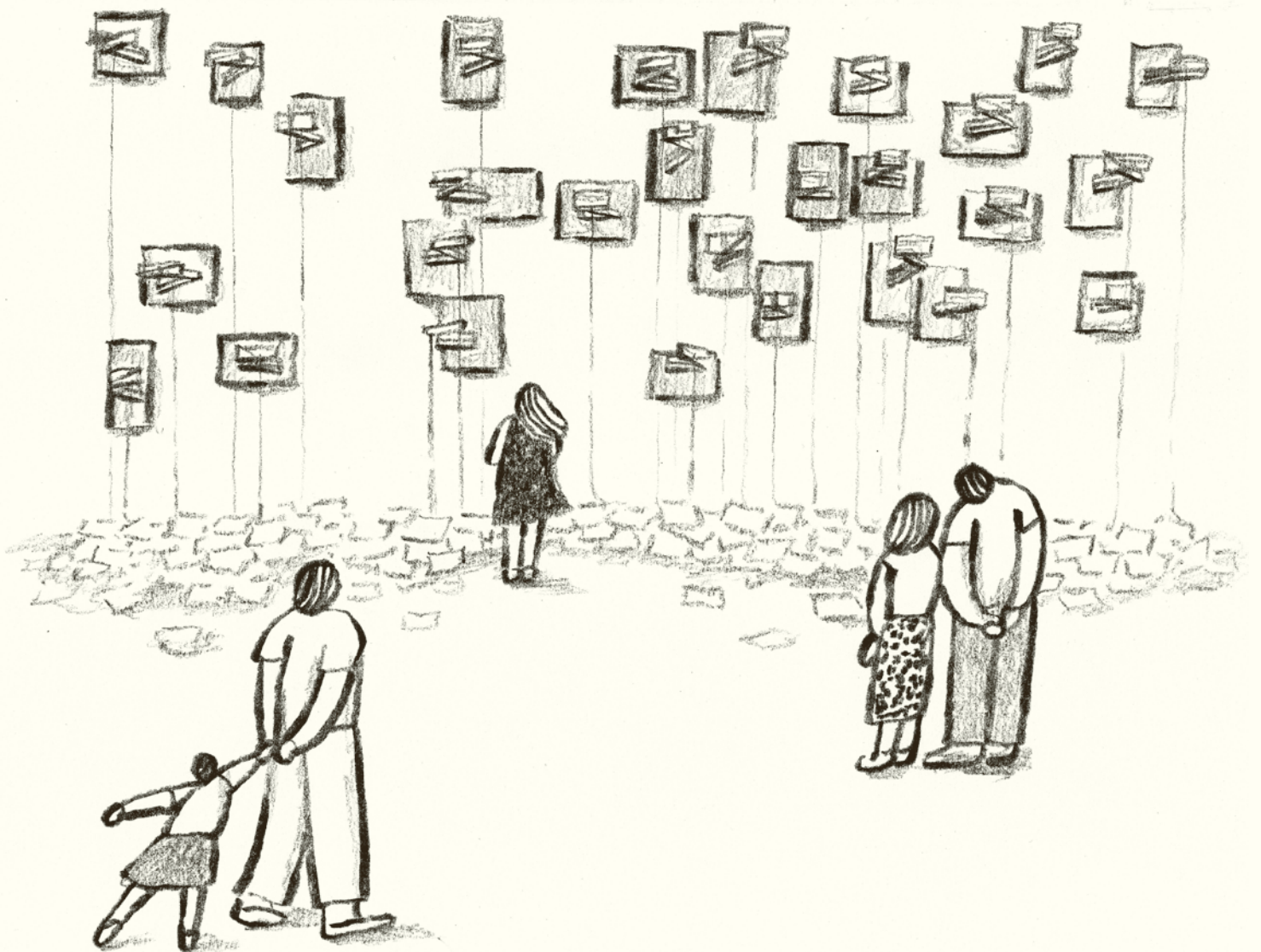


豊田市美術館 オンライン 鑑賞ガイド



Toyota
Municipal
Museum
of Art
豊田市美術館



久門剛史 「らせんの練習」 セルフガイド

作品ガイドボランティアが
毎日行っているギャラリートゥアーを
紙上で再現。

ボランティアからの問いかけに、
あなたならどうこたえますか？

扱う作品：


展示室 1

Force | 2020年

展示室 3

丁寧に生きるー完全な関係 | 2020年





攻撃的に見えるときもあれば、
さみしく感じるときもある。
いずれにせよ、緊張感があるな。

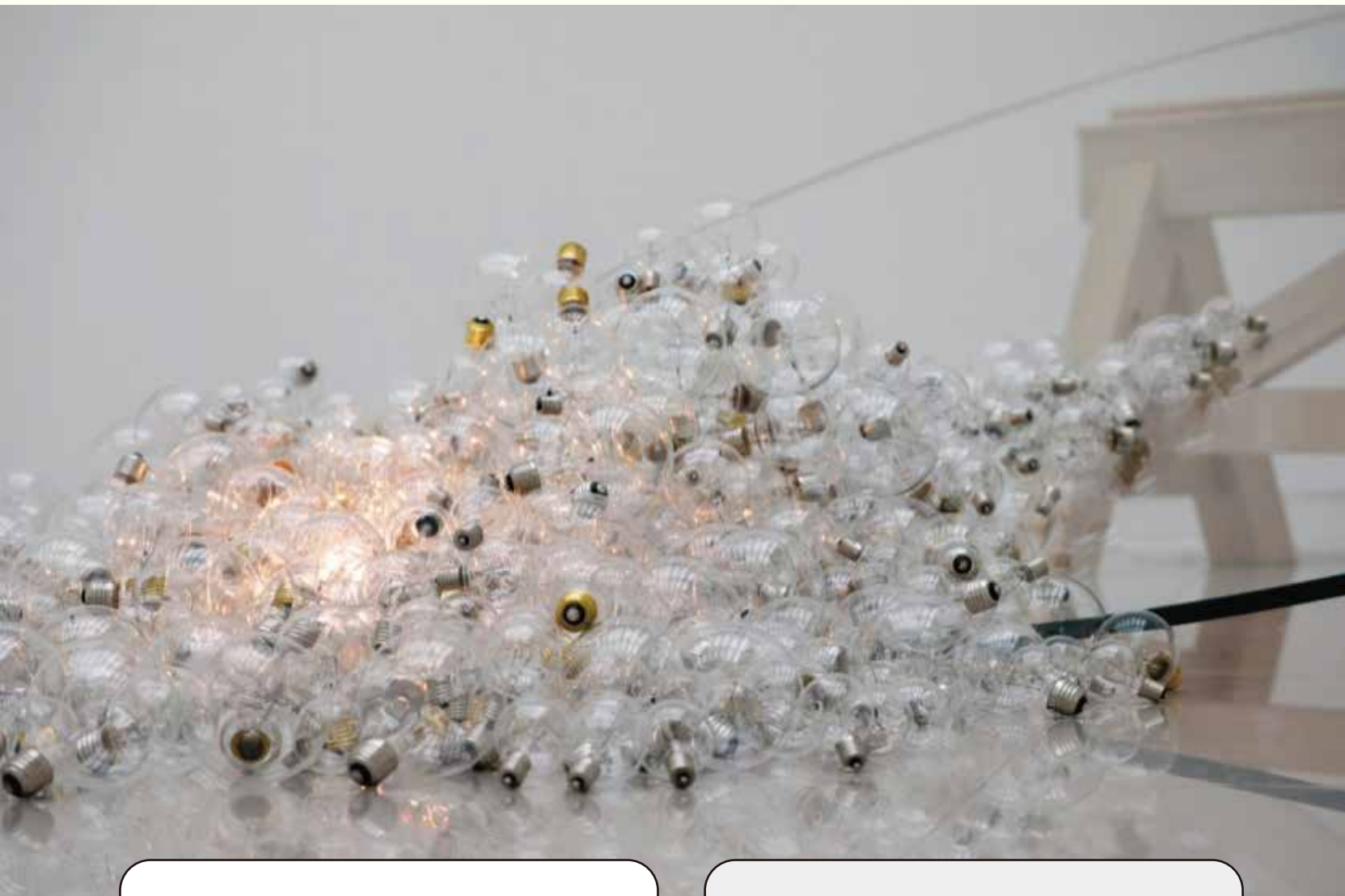
なんか空間全体が寒々しい…
感傷的な気持ちになります。

見る時間によって光の加減がずいぶん違って、
それで受ける印象も異なります。
今回で5回目だけど、強く感じるときもあれば、
さみしく感じるときもあるかな。

質問：

大きな音が鳴っていて、
いつもとは違った空間に
なっています。
感想を聞かせてください。

大きな音がしているからかも
しれないけど、
恐怖と美しさを同時に
感じます。



質問：
この電球に注目しましょう。
どんなふうに見えますか？

全体がモノトーン的空間だからか、
この電球の光には前向きなものを感じる。
頑張ってる、でも落ちてる、
って状況かもしれないけれど。

傾いたガラスから電球が
ずり落ちているように見えて、
これから世界が消滅に向かうように
見える。

わたしは逆に、生命の卵のように見えて、
時折灯る光のせいか、
ここに希望を感じます。
電球はこのガラスを登っていくのでは
ないでしょうか。

質問：

ふたつの電球の動きをよく見てください。
どんなふうに見えますか？
タイトルの「完全な関係」についても
意見をきかせてください。

ずっと見ていたい。
不思議と落ち着きます。

わたしはむしろ規則のなさに
いらいらしちゃって、
ぶつけたくなっちゃう。

規則があるのかなのか、
片方がもう片方に
合わせようとしているように
見えるときもあるし、
それが逆になったり、
合いそうで合わない。

いつかはふたつの電球の重なりあう時がくる…。
そんな「完全な関係」を想像したくなります。

二つはケースで隔てられてる。
「完全な関係」って
なんだろうって思います。

ケースのガラスに映ってる光も
あって、電球は出会わないけど、
その光は交わってるように
見えるときがあります。

